

ようこそ文学館へ

～2022年、福井県ふるさと文学館に来館された作家たち～

今年講演会や講座のためにふるさと文学館を訪れた作家の中から
9名をピックアップし、書籍や直筆資料を紹介します。

期間：2022年 12月 23日（金）～ 2023年 4月 9日（日）

◆作家紹介

鈴木 まもる 氏	2月26日(土) リモート講演会 絵本作家。1952年東京都出身。かこさとしの最後の作品『みずとはなんじゃ?』の絵を手がける。絵本の制作と並行して世界中の鳥の巣を収集・研究している。
武藤 政彦 氏	4月9日(土) 文学講座のため来館 自動からくり人形作家。1956年神奈川県出身。高見順、萩原朔太郎などの文学作品を題材にした作品も多数制作している。
角野 栄子 氏	7月2日(土) 夏季企画展記念講演会のため来館 作家。1935年東京都出身。代表作に『魔女の宅急便』、「アッチ・コッチ・ソッチの小さなおばけシリーズ」などがある。国際アンデルセン賞・作家賞受賞。
佐藤 実紀代 氏	11月6日(日) 文学フェスタワークショップのため来館 編集者。1981年福井市出身。2018年、若狭塗箸の職人を取材した『はしはうたう』を出版。大野市で本屋「HOSHIDO」を運営しつつ多岐に活動している。
中島 京子 氏	11月6日(日) 文学フェスタ講演会のため来館 作家。1964年東京都出身。『小さいおうち』で直木賞、『やさしい猫』で吉川英治文学賞など受賞多数。最新作に『キッドの運命』がある。
村田 浩 氏	11月12日(土) 創作講座のため来館 俳人。1943年石川県出身。50代より句作を始め、現在、福井雪解会会長、俳人協会幹事・福井県支部長、福井県俳句作家協会副会長を務める。
青柳 碧人 氏	12月8日(木)、9日(金) オーサートークのため来館 作家。1980年千葉県出身。2009年『浜村渚の計算ノート』でデビュー。同作は現在も続く人気シリーズとなっている。小説だけでなく漫画原作も手がける。
川口 晴美 氏	12月11日(日) 萩原朔太郎賞受賞記念文学講座のため来館 詩人。1962年小浜市出身。大学在学中より詩作を始める。2022年『やがて魔女の森になる』で第30回萩原朔太郎賞受賞。『歷程』同人。
萩原 朔美 氏	12月17日(土) 秋季企画展関連講演会のため来館 映像作家、エッセイスト。1946年東京都出身。著書に『演劇実験室 天井桟敷の人々』、『劇的な人生こそ真実』など。前橋文学館館長。

◆書籍紹介

項番	作家	種別	資料名	発行年	発行者
1	作:かこさとし 絵:鈴木まもる	書籍	『みずとはなんじゃ?』	2018	小峰書店
2	武藤政彦	書籍	『ムットーニ・カフェ』	2000	工作舎
3	角野栄子	書籍	『魔女の宅急便』	1985	福音館書店
4	中島京子	書籍	『オリーブの実るころ』	2022	講談社
5	村田浩	書籍	『能登育ち』	2015	文学の森
6	青柳碧人	書籍	『赤ずきん、旅の途中で死体と出会う。』	2020	双葉社
7	川口晴美	書籍	『やがて魔女の森になる』	2021	思潮社
8	萩原朔美	書籍	『毎日が冒険』	2002	三月書房